

Keratosis obturans に対する Urea 外用の効果

三 好 彰 河 本 和 友 (東北大)

1. 緒言

Keratosis obturans は Epidermis plugs, Cholesteatoma-like accumulations, あるいは外耳道真珠腫などと呼ばれる病態であり、外耳道表皮の落屑物の過剰蓄積と耳垢とが混じり合って発生するものとされている。又、本症においてはこの角化物の蓄積が、著明な聴力低下から時には外耳道骨壁の破壊を生ぜしめ、顔面神経を露出させることすらあることも知られている。

しかしながらこれに対する治療法としては、反復して外耳道の角化物を除去する程度の保存的療法か、もしくは進展した症例に対する手術的療法程度しかなく、Bunting に至っては "No cure is known: patience is required." とさえ述べている。

今回我々は、本症の 4 症例に対し 8 M 尿素液の点耳並びに尿素軟膏の外耳道塗布を試行、全く外耳道の角化物を消滅させるまでに至ったので、これについて報告すると共に若干の考察を加えさせていただく。

2. 症例

i) 症例 1 S・S 55 才 女性

'79 年 6 月半ば頃よりの両側難聴を主訴として同年 7 月 17 日東北大学長町分院耳鼻科を受診、両耳垢栓塞を指摘され、翌日除去される。耳垢よりの真菌培養 (-)。

以後約 1 ヶ月ごとに、両側外耳道に充満する上皮塊を除去。

'80 年 3 月 11 日、精査の為東北大学医学部耳鼻科を紹介され受診、外耳道の骨破壊こそないものの巨大な上皮塊の蓄積を認めるところから Keratosis obturans と診断され、8 M 尿素液の点耳、尿素軟膏の塗布を受けた。

本症例はその後も数ヶ月にわたり上皮塊の蓄積を見たが、やがて全く異常な蓄積を見ることはなくなった。

ii) 症例 2 T・M 61 才 女性

両側難聴を主訴として '80 年 12 月 25 日公立気仙沼病院耳鼻科を受診、両側外耳道の異常な上皮塊の蓄積から Keratosis obturans と診断される。

本症例の場合、右側外耳道の骨破壊が存在し、鼓膜輪前方及び上方から後方にかけての破壊が特に著しく、後上方には肉芽の増生が認められた。

本症例に対しても 8 M 尿素液の点耳と尿素軟膏の塗布が行われ、角化物の異常蓄積及び外耳道の肉芽は、直ちに消失した。

iii) 症例 3 M・N 51 才 女性

反復する両側外耳道上皮栓塞を主訴として、'81 年 2 月 16 日東北大学医学部耳鼻科を受診。同様の治療にて治癒。

iv) 症例 4 M・S 71 才 女性

右側難聴を主訴として、'81 年 6 月 19 日公立気仙沼病院耳鼻科を受診。右側 Keratosis obturans として同様の治療を受け、治癒。

3. 考察

緒言において述べた如く、本症は難治の疾患として知られており、現在まで全くと言って良い程有効な治療法がなかった。それは先に引用した Bunting の "No cure is known; patience is required." 及び "Treatment is simple, but must not be neglected!" という言葉に端的に象徴される如くである。

しかしながら今回我々が試みた尿素液点耳並びに尿素軟膏の外耳道塗布は、外耳道に蓄積した異常な量の角化物を消滅させ、増生した肉芽を消滅させるに当り、劇的な効果を発揮した。

この尿素は、Swanback の述べているように、蒸留水等と較べはるかに Debris に対する水分保有力増強作用の強いものであり、又古くから知られているように、蛋白分子中のアミノ酸残基やポリペプチド鎖の立体配座に変化を起こして、

蛋白質を溶解または膨潤させる作用を有するものである。その角質内水分保有効果及び蛋白分解作用は、同じく尿素の持つ抗菌作用と相俟って、本症に対する臨床効果を顕したものと思われた。

今後、本症の治療に当っては尿素液点耳並びに尿素軟膏塗布等、Ureaの外用が先ず試みられるべきであり、外耳道角化物の機械的な除去の反復は全く無意味であろうと考えられた。

4. 結語

Urea外用により治癒に至ったKeratosi obturansの4症例につき報告した。

今後、本症の治療に当ってはUreaの外用が先ず試みられるべきであり、外耳道角化物の機械的な除去の反復は全く無意味であろうと考えられた

参考文献

- 1) Paparella and Schumrick; Otolaryngology, 11nd edition, Vol. II 1360. 1980.
- 2) 宮島逸郎, 他; 外耳道真珠腫, 耳展, 23; 381-386. 1980.
- 3) Bunting, W. P.; Ear canal cholesteatoma and bone absorption, Tr. Am. Acad. Ophth. and Otol. 72; 161-172 1968.
- 4) Morrison, A. W.; Keratosi obturans, Jour. Laryngol. and Otol, 70; 317-321. 1956.
- 5) Greene, L. D.; Cholesteatoma-like accumulations in the external auditory meatus, Arch. Otolaryngol. 18; 161-167. 1933.
- 6) Piepergerdes, J. C. et al.; Keratosi obturans and external auditory canal cholesteatoma, Laryngoscope, 90; 383-391. 1980.
- 7) Bauer, F.; Tubal function in the glue ear; Urea for glue ears, Jour. Laryngol. and Otol. 89; 63-71. 1975.
- 8) 尿素含有外用剤の諸角化異常症に対する臨床効果研究班; 同効果の検討(第1報), 臨床皮膚科, 29; 55-63. 1975.

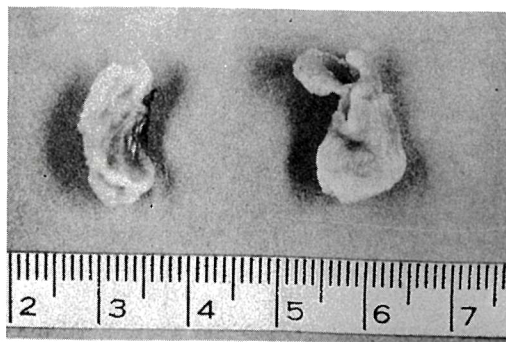


図1. 除去された外耳道の角化物(症例1)



図2. 図1.の病理組織標本

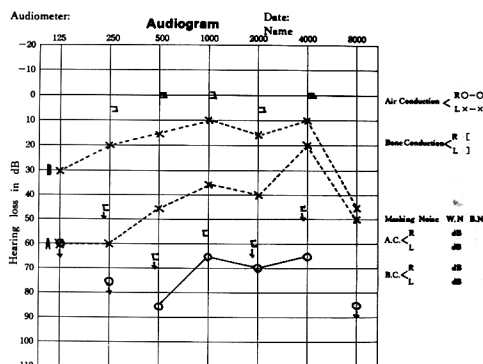


図3. 外耳道角化物除去前(A)及び除去後(B)の聴力(症例1)
なお右側は以前から高度の感音難聴を呈していた